

第七十六回
帝國議會
貴族院

蠶絲業統制法案特別委員會會議事速記録第四號

昭和十六年二月二十六日(水曜日)午後一時四十五分開會

○委員長(子爵八條隆正君) 是ヨリ開會致シマス、質疑ハ前回ニ於キマシテ大體終了シタモノト認メマス、御異議ガナケレバ是ヨリ討論ニ移リタイト存ジマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵八條隆正君) ソレデハ討論ニ移リマス

○子爵米津政賢君 農林省ノ法案モ幾ラモ澤山出タノデゴザイマスケレドモ、大臣ガ御出席ニナツタ機會ガ全然ナカッタモノデスカラ、此ノ討論ノ機會ニ、或ハ重複シテ御聽苦シイカトモ思ヒマスケレドモ所見ヲ申上ダタイト思ヒマス、大體私ハ本案ニ對シテ非常ナ失望ヲ感ジナガラ、又非常ナ期待ヲ有ツテ賛成申上ゲル者デゴザイマス、前ノ委員會ノ時ニ質問ノ仕方ガ甚ダ不用意デアリマシテ、一息ニ申上ゲテシマッタモノデスカラ、誠ニ意見ヲ開陳シタヤウニナツデ、果シテ政府委員、次官カラ意見デアルヤウニ御取ラレシタノデゴザイマスケレドモ、結局ハ此ノ蠶絲業統制ヲ行フニ付テノ自分ノ意見ヲ以テ政府ノ御意見ヲ叩イテ見タヤウナ積リダッタノデゴザイマス、話ガ或ハ重複スル點ハ御許シ願ヒタイノデアリマスガ、日本ノ農業ノ非常ナ發展ニハ地力ト農民ノ勤勞、此ノ二ツニ賴ル外ハナイト思フテ居リマス、ダカラシテ此ノ前ノ委員會ノ時ニモ日本ノ國土ノ多角味ト云フコトヲ申上ゲタ通り、實ニ世界ニ得難イ玉ノヤウナ國土デア

ルト思フテ居リマス、ソレカラ又米ノ生立ニ付テモ申上ゲマシタガ、實ニ世界ニ類ノナイ惟神ノ食物デゴザイマス、農業ノ上カラ言ヘバモウ當局ノ方ハ御承知ノ通り、我が國ノ溫度ト、ソレカラ濕氣ト土壤ノ性質ガ非常ニ良イノト、水利ニ恵マレテ居リマス關係カラ、有機質ノ肥料ト云フモノガ非常ニ能ク腐熟發酵シテ、日本ノ土地ハ永遠ニ若ク老ヲ知ラナイ國土デアアルト云フコトニ考ヘテ居リマス、ソレダケニ學者ノ爲ダカ、或ハ肥料會社ノ爲ダカ、藥物農業ガ行ハレマシテ、大衆ハ金肥ト云フモノガナカッタナラバ、農業ハ出來ナイモノノヤウニ教ヘラレテ居リマス、又サウ思ヒ込シマツテ居ルノデアリマス、農林省ニ於テハ幾億萬圓ノ國費ヲ投ジテ肥料ノ原料ヲ外國カラ輸入シテ金肥ヲ造成スル、金肥ヲ配給スルト、斯ウ云フコトガ農林省切ッテノ大半ノ問題ニナツテ居リマス、米ノ方デモ亦サウ云フ藥ガナケレバ穫レナイト云フヤウナニサレテシマツテ居リマス、丁度今ノ現代人ガ體力モ精力モ非常ニ衰弱シテ、醫藥ト云フモノカラ離レタナラバ、人間ノ生活ト云フモノガ出來ナイヤウニ考ヘラレテ居ル、何カシラ絶エズ小サナ修繕ヲ肉體ニ加ヘテ居ルト云フノガ、今ノ人ノ健康狀態デゴザイマス、デ我々ノ民族ノ壽命ト云フモノモ、壽命ト云フモノモ、壽命ガ延ビタンデハナクテ、唯長生キスル人間ガ殖エテシマヒマシタ、又病弱デ育チ得ナイ人間ガ育ッテ來ル、自然淘汰ト云フモノハ全ク世ノ中ニ行ハレナイモノニナツテ

シマツテ居ル、デ色々ナ教育ヤ「スポーツ」ヤ、サウ云フモノヲ獎勵スルニ拘ラズ、人間ノ體力トカ、精神力ト云フモノハ何ニモ向上ハ見ラレナイ、國土ノ體力モ低下スルガ、米ノ體力モ低下スル、退化スル一方デゴザイマシテ、土地ハ重クナツテシマフシ、又土地ノ動脈ハ硬化シテシマフ、此ノ土地ノ身體ハ冷エテシマツタリ、暑過ギタリ、何ノ潤ヒモナイデ、絶エズ農業ト云ヘバ冷害、旱害、蟲害ノヤウニ脅カサレテ居ナケレバナラナイ有様デゴザイマスカラ、年々技術ニ依ツテ收穫増進ト云フコトハアルケレドモ、應テ本當ノ體力ノ衰ヘト云フモノガ打チ勝ッテ來タナラバ、テンド頼リニナラナイモノニナツテシマフ、消費ノ方面ニ於キマシテモ、米程貴重ナ、何ニ代ヘルコトモ出來ナイ價值ノ高イ食物ハナイト思フテ居リマス、處ガ其ノ食物ノ米ト云フモノト、ソレヲ作ル農民ト云フモノモ食物トシテモ、人間トシテモ餘程低ク評價サレテ居ルノデゴザイマス、然ルニ本當ノ米ノ生カシ方ヲシテ、玄米ト云フモノト較ベマシタナラバ、マア其ノ玄米ダケデ以テ、人間ノ營養分ト云フモノハ十分足りテ居ッテ、副食物ト云フモノハ殆ド要ラナイ位ノモノデアアル、麥ヤ「パン」等トハ全ク比較ノ出來ナイ食物デゴザイマス、穀ヲ付ケテ置キマシタナラバ、如何ナル長年月ノ貯藏ニモ堪ヘル立派ナ包裝デアルノニ、今日ノ米ノ消費ノ方法ト云フト肝腎ナ養分ハ皆摺リ取ッテシマヒマシテ、サウシテ脂肪トカ蛋白質ト云フモノハ家畜等ニ皆喰

ハシテシマツテ居ル、人間ニ大事ナ養分ハ摺リ減ラサレテ家畜ニ皆廻シテ居ル、近年頻リニ使ハレル「ローラー」ト云フノハ沙汰ノ限りノ製造法ダト思フテ居リマス、多分深川ノ米穀倉庫アタリノ米ト云フモノハ腐ッテ居リハセスカト思フ位デゴザイマス、人間ノ食糧ヲ作ルノカ、家畜ノ食糧ヲ作ルノカト云フノガ始終問題ニナルケレドモ、モウ出來マシタ米カラ大事ナ所ハ摺リ取ッテ家畜等ニ喰ハシテ居ルヤウナ有様デアリマス、實ハ大臣ニハ御出席デゴザイマセヌデシタケレドモ、前回ノ御質問ノ時ニ「ダレ」等ヲ引用シタノハ、自分デモ實ハキザナ話ダト思フテ居ルノデアリマスケレドモ、民族ノ血ト土トヲ題目トシテ考ヘマシテ、ソレヲ繰返シタイ爲ニ、唯引張り出シテ見タノデゴザイマス、處ガ民族ノ血ト土トドウ云フ關係ガアルノカ、人間ノ「ブルート」ト「ボーデン」ト云フモノハドウ云フ關係ガアルモノカト云フコトハ、實ハ「ダレ」等引張り出サナイデモ、實ハ神代カラ私共教ヘラレテ居ルノデアリマス、伊勢ニ内宮ガアリ、外宮ガアツテ、豐受大神ガ内宮ト同格ニ齋キ祭ラレテ居リマス、假ニ之ヲ宗教ト云フ名前ヲ與ヘラレマスルナラバ、此ノ立派ナ宗教ト云フモノハ、外ニ何處ノ國ニアルダラウカ、食物ニ付テハ朝野ニ色々祭事ガアル、又祭日モアル、天皇自ラ田植ヲ遊バシマスシ、皇后ハ自ラ絹ヲ紡イデ範ヲ示シテオイデニナリマス、出來秋、收穫ハ、農林大臣ハ、陛下ガ假ニ行幸ニナツテ居ルヤ

ウナ場合デモ、行幸先ニ迄伺ッテ、言上スルヤウナ有様ニナッテ居ルノハ、全ク單ナル義理デハナイト思ッテ居リマス、全ク血ト土ノ國、其ノモノガ我々ノ古來ノ國柄デアルト思ヒマス、ダカラ「ダレー」モハ貴國ノ惟神ノ道ダト云ッテ居ルデハゴザイマセヌカ、向フガ日本ノ惟神ノ道ヲ傳ヘテ思想トシテ、ソレヲ血ト土ト云フ風ニ言ッテ居ルヤウナ譯デアル、米ト一緒ニ神カラ授ケラレタ惟神ノ衣料ガ蠶デアル、デ私ハ「ダレー」ナルモノヲ引用シタ爲ニ、ソレハ食物ニ付テノ議論デアリ、衣料ハ格別ナモノダト云フヤウニ御答辯ヲ受ケタノデゴザイマスケレドモ、色々衣食住一切ヲ通シテ理ハ一貫シテ居ル、國策トシテハ同ジ方法デ行ハレナケレバナラナイト思ッテ居リマスガ、今米ノコトニ付テ申上ダタ通リナ話デ、絹ト云フト米ヨリ一層落魄シタ姿ノヤウニ我々ニハ見エ、一般ノ大衆ノ生活トハ全ク沒交渉ニナッテシマッテ外貨一途ノ目的ニ發達シタト云フコトハ、ドウ考ヘテモ絹本來ノ使命デアルトハ思ヒマセヌ、絹ガ自覺シテ本當ノ姿ニ立還ル時ガ必ズアラウト思ヒマスガ、ソレヨリモ農學者ヤ農業技術者ガ國體認識、國土ノ認識、米ノ認識、米價ニ對スル認識、米ノ生産ニ對スル認識、米ノ消費ニ對スル認識、ソレヲ皆見直シテ掛カラナケレバナラナイト思ヒマスガ蠶蠶モ全ク其ノ通りダト思ヒマス、私共ハ蠶蠶ヲ萎縮退却サセヨウトハ思ッテ居ナイデ、近ク省内ニ畜産機構ヲ改革サレマシタト同ジヤウニ、ドウ云フ形態ヲ採ルニシテモ、蠶蠶其ノモノハ益、革新シテ行カナケレバナラナイカト思ッテ居リマス、國ノ新體制ト共ニ斯ウ云フ蠶業ノ改革ト云フコトハ、農業ノ大變革デゴザイマスカ

ラ、前途ハ非常ニ遼遠デアリ、併シ其ノ氣持ダケハ御同意ヲ得タイカト思ヒマシタケレドモ、サウ云フ風ニ御答辯ハ受ケナカッタノデゴザイマス、此ノ法案ハ全國大半ノ蠶業ヲ統制スル劃期的ノ變革デアッテ、現在ノ事情トシテハ最も喫緊ノ處置ダラウトハ思ヒマスガ、併シ之ヲ貫イテ居ル精神ニ至ッテハ古イ殻カラ一步モ出テ來ナイヤウニ感ズル、ソレデ果シテ宜イノデゴザイマセウカ、國用々々ト言ハレケレドモ、結局ハ現在ノ絹ノ狀態ニ即シテノ國用論デアリマシテ、丁度國ノ政治ニ於テモ體制ガ新クデアルケレドモ、ソレヲ語ル聲ハ數多クアルケレドモ、人ノ心持ハ少シモ改マッテ居ナイノト同ジヤウナ氣ガスルノデゴザイマス、併シ此ノ法案モ蠶業界ニ取ッテハ進歩ノ段階、其ノ一步デアラウカト思フカラ、先ヅ斯ウ云フ計畫ヲ以テ旅ヲスルノモ宜カラウト思フノデ、ゴザイマス、丁度私共ハ子供達ノ心構ヘハ物足ラスケレドモ、ソレヲ思ヒヤリナガラ遠イ前途ヲ見送ルヤウナ心持デ、現在不滿ハアルケレドモ、將來ノ良キ結果ニナリマシヤウニト云フ期待ノ下ニ本案ニ賛成申上ダタイト思フノデゴザイマス、大變長クナリマシタケレドモ、大臣モ御出席ノコトダカラ自分ノ考ヘタコトヲ言ヒタイト思ッテ賛成ノ意見ヲ述ベマシタ

○委員長(子爵八條隆正君) 他ニ討論ニ付テ御發言ハゴザイマセヌカ

○瀧川儀作君 原案學ガテ賛成致シマス

○今井五介君 私採決ニ先ダッテ少シク述ベサシテ戴キタイコトガゴザイマス、私チヨット風邪氣デアリ、又老眼デアアルガ爲ニ、私ノ申上ゲルコトガ御判斷ニ苦シムカモ知レマセヌガ、ドウゾ御許シテ戴キタイト思

ヒマス、今回御提出ニナリマシタ蠶絲業統制法案ハ時局柄最も適切ナル案ト存ジ、深ク敬意ヲ表スル次第デアリマス、元來斯カル蠶絲業ノ統制問題ハ蠶絲業者トシテハ、十數年來ノ要望デアリマシタガ、此ノ度漸ク茲ニ實現ノ機會ニ到達シマシタコトハ、單リ業者ノミナラズ國家ノ爲大イニ意ヲ強ウスル次第デアリマス、從ッテ統制ノ機運到來シタル以上ハ、些カモ躊躇逡巡スル所ナク、斷乎トシテ徹底ノ統制ヲ行ヒ、再ビ將來ニ禍根ヲ貽スコトナキヤウ期セラレナケレバナラナイト思ヒマス、本案ニ對スル農林大臣ノ御言葉、將又貴衆兩院ノ委員會ニ於ケル質問應答ヲ伺ヒマスルト稍、了解シ得ラルルモ、遺憾ノ點少カラズト思ヒマス、最モ其ノ成果ノ如何ト云フコトハ要スルニ法ノ運用ニ在リト深く信ジテ疑ヒマセヌ、然ルニ輸出生絲ヲ統制スレバ、外貨獲得ノ上ニ品質ノ低下、需要ノ減退ヲ招來スルノ虞アルトカ云フ御説明ノヤウデアリマスルガ、既往ニ於ケル經驗ニ徴スレバ、現在ノ如ク輸出生絲ヲ自由取引ニシテ置クナラバ、絲價ノ變動ハ相變ラズ甚ダシク、消費者ハ之ガ爲ニ非常ナル困難ヲ來シ、益、需要ハ減退スルノデアルト存ジマス、既ニ今日迄各産業方面ニ於ケル各會社ハ統制ヲ行ハレテ居リマスルガ、何レモ満足ノ成績ヲ收メナイト同ジデ居リマスルガ、是ハ要スルニ生産ヨリ消費迄一貫シタル統制ガ行ハレテ居ナイカラデアアルト思ハルノデアリマス、從來製絲業者ハ農產物ヲ加工スル所以デ、製絲業者ハ農家ノ延長デアリト看做サレ、工業トシテノ存在ヲ輕視セラレテ居リマシタ、從ッテ事業ノ經營モ、國ノ政策モ總テ其ノ御方針ガ商業方面ニ重點ヲ置カレタガ爲ニ、

自然其ノ事業ガ投機的トナリ、延イデハ是ガ農村ニ迄波及シテ、蠶絲業ハ取モ直サズ投機的事業ナリト一般ヨリ認メラル、ニ至タ次第デアリマス、是レ即チ蠶絲業ヲ不堅實ナラシメタ最大原因デアルト思フノデアリマス、幸ヒ茲ニ蠶絲業ノ一大革新ヲ圖ラムトスル以上ハ此ノ際此ノ病根ヲ一掃シテ、蠶絲業ヲ最も堅實ナル基礎ノ上ニ立タシムルコトガ緊密デアアルト確信スル者デアリマス、尤モ繭ハ一定基準ヲ以テ總テ統制會社ニ買上ダラレル譯デアアルカラ、輸出生絲ノ價格ノ變動ハ直接養蠶家ニハ影響セザルヤノ筋書デアアルガ、輸出生絲價格ノ變動ハ自然國用生絲ノ價格ニ影響シ、更ニ繭價ニ及スコトハ必然ノ結果トナリマス、是レ蠶絲業全般ノ基礎ヲ動搖セシムルニ至ルモノデアアル、是ニ於テ蠶絲業ノ根本ヲ成ス所ノ生産部門、即チ蠶種、養蠶、製絲ノ各業者ハ一團トナッテ蠶絲業ノ徹底セル一元統制ヲ熱望シテ居ル所以デアッテ、販賣部門ノ一部ヲ自由トスルガ如キ統制ハ統制ノ本旨ニ副ハザルノミナラズ、將來ニ禍根ヲ貽ス虞アリト存ジマス、尙更ニ私ハ生産部門ノ三團體ガ是迄各方面ニ向ッテ陳情シタ其ノ要點ヲ茲ニ述ブルコトヲ御許シテ戴キタイト思ヒマス、茲ニ改メテ申ス迄モナク三團體ト云フノハ百六十四萬七千餘戸ヲ有スル全國養蠶業組合聯合會、千八百有餘工場ヲ有スル全國製絲業組合聯合會、二千七百五十餘戸ヲ有スル全國蠶絲業組合聯合會、此ノ團體ガ熱望シテ陳情ヲ致シタル其ノ理由ノ一部ヲ申上ダテ御聽ヲ願ヒタイ、輸出生絲ヲ均外ニ放置スルトキハ統制ヲ亂スコトト云フコトガ第一ノ理由デアリマス、之ヲ一カラ八項ニ分ッテ申上ゲマス、一ハ統制ニ破綻ヲ來スコト、現

時ノ物資統制ニ於テ重大ナル缺陷ヲ認メラ
ル、モノハ一部の統制、跛行的ノ統制、不
均衡ナル統制デアリマス、蠶絲業ノ統制ニ
際シ、最モ要部ヲ占ムル輸出生絲ヲ埒外ニ
置クコトデアラバ蠶絲業ノ統制ハ破綻ヲ來
スニ至ルコト免レヌト存ジマス、二トシテ
ハ蠶絲業ヨリ投機性ヲ排除シ得ザルコト、
養蠶製絲共ニ危險ナル産業、投機の産業ト
稱ヘラレ、興亡常ナク其ノ安定ヲ期シ得
ザリシハ業界ノ爲ノミナラズ、國民經濟
ノ上ヨリ見ルモ最モ遺憾トスル所ナリ、今
回蠶絲業ニ對シ強力ナル統制ヲ加ヘムトシ
ツ、アルニモ拘ラズ、輸出生絲ヲ埒外ニ置
キ、舊來ノ如ク清算市場ニ於ケル取引ヲ放
任シ依然トシテ投機思想ノ具ニ供セントス
ルハ、業界ノ積年ノ惱ミヲ打破スルノ徹底
ヲ缺クモノト存ジマス、三ト致シマシテハ、
絲價ノ安定ヲ期シ難キコト、絲價ノ安定ヲ
確保スルノ要アルコトハ萬人ノ等シク認ム
ル所デアリマス、政府ハ制高制低ノ値幅ヲ
縮ムルコトニ依リ、絲價ノ安定ヲ確保スベ
シト唱フルモ、斯カルコトハ之ヲ譬ヘテ見
ルト云フト耳ヲ掩ウテ鈴ヲ盜ムノ類ト存ジ
マス、輸出生絲ハ今日二十萬俵ノ範圍ニ
限定セラレヤウデアリマス、斯ク少量ニ
限定サル、ニ至ラバ、多イ時ハ七八十萬俵
ガ清算取引ノ目的トセラレタリシニ比シ、
一層投機思想ハ容易ニ行ハレ、價格ノ安定
ハ期シ得ラザルモノト存ジマス、四ト致
シマシテ業者ニ甚シキ不出來ヲ招來スルコ
ト、國用生絲ノ生産者ハ、公定價格ニテ統
制會社ニ賣却スルノ外、他ニ處分ノ途ナキ
モノニ對シ、輸出生絲ヲ生産スル製絲家ハ、
公定價格ニテ統制會社ニ賣却スルコトガ出
來、定期ニ賣リ繋グコトモ出來、輸出業者

ニ賣却スルコトモ差支ナク、直輸ヲモ爲シ
得ルトノ御説明ナリ、是ガ等シク製絲業者
ナルニ國用向製絲トシテ指定サレタモノト、
輸出向製絲トシテ指定サレタルモノトノ間、
偏重ノ嫌ヒアリトス、要スルニ斯カルコト
ハ大製絲家保護ト誤解サレ、小製絲家壓迫
ノ譏リヲ免カレザルモノト存ジマス、五ト
致シマシテ需用地ニ於テ一層價格ノ動搖ニ來
スニ至ルベキコト、米國ニ對スル輸出ヲ維持
増進セムニハ、絲價ノ安定ヲ確保スルノ外
道ナシト存ジマス、然ルニ是迄通り自由放
任輸出サル、場合、商品ハ自由ナルガ故ニ、
中間業者ハ斯カル間隙ヲ惡用シ市場ヲ攪亂
スルヲ以テ、絲價ノ安定ハ愚カ、需用ノ増進
モ、現状維持モ覺束ナシト存ジマス、六ト
致シマシテ支那生絲トノ調整ヲ不可能ナラ
シムルコト、我が國蠶絲業ノ最モ大ナル惱
ミハ、支那生絲トノ競争ニアリト存ジマス、
カルガ故ニ兩國生絲ノ輸出ニ關シテハ強力
ナル調整ヲ行フコトハ兩國蠶絲業ノ爲ニ最
モ緊要ナルコトト存ジマス、而シテ之ガ調
整ハ、兩國蠶絲ノ輸出ガ一元のニ統制サレ
テ初メテ可能デアルト存ジマス、サレバコ
ソ我が國ニ於テハ支那ニ對シ、輸出生絲一
元の統制ヲ強要シテ居ラル、ノデアリマス、
然ルニ我が國ノ生絲統制ヲ自由放任シテ、支
那生絲ニ對シ一元の統制ヲ強要スルハ、甚ダ
シキ無理解ノコトト存ジマス、七ト致シマシ
テ生絲ノ需要變遷ニ應ジ、強力性ヲ缺クニ至
ルベキコト、生絲需要ノ前途ハ、今日ニ於テ豫
想シ得ザルモ、輸出ニ關シ多大ノ不安ヲ感ズ
ルノ今日、國用ト輸出トヲ併セ統制會社ニ於
テ統制スル時、初メテ輸出ノ増進ニモ應ズル
コトヲ得、又減退ニモ對處シ得テ、彈力性ア
ル措置ヲ講ジ得ラル、モノト存ジマス、殊ニ

新販路開拓ノ如キハ、一元の輸出統制機構
ノ整備ニ依リ其ノ目的ヲ達シ得ラル、モノ
ト存ゼラレマス、八ト致シマシテ中樞機關
ノ確立ヲ要スルコト、蠶絲業ノ難局ヲ突破
シ、將來ノ發展ヲ期セムトセバ、蠶絲業ノ
中樞機關ヲ確立シ、有ラユル事態ニ對處シ
テ機宜ノ處置ヲ講ジ得ルノ體制ヲ整フルノ
要アリト存ジマス、然ルニ折角統制會社ヲ
設立セムトスルニモ拘ラズ、輸出生絲ヲ埒
外ニ置クニ於テハ、中樞機關トシテノ機能
ニ缺クル所アラシメルノデ、蠶絲業將來ノ
爲甚ダ禍根ヲ貽スモノト存ゼラレマス、以
上ノ要點ハ、生産者團體ハ一致シテ輸出生
絲ヲ國外生絲ト同様ニ一元のノ保護ヲ爲サ
ムトスルコトヲ切望シテ已マナイト云フ次
第デアリマス、以上ヲ以テ私ハ之ヲ速記ニ
留メテ戴ケバ満足スル次第デアリマス
○瀧川儀作君 私ハ今日迄色々參考ニナル
御意見ヲ伺ヒマシタガ、一應御賛成ヲ申上
ゲルニ付テ重ネテ茲ニ申上ゲテ置キタイト
思ヒマス、私ハ蠶絲業デモナク、製絲業者
デモナク、又輸出業者デモアリマセヌガ、
生絲ノ問題ガヤカマシクナリマシタニ付キ
マシテ、關西蠶絲絹業協會ト云フモノヲ設
ケテ、私ハ會長トナツテ此ノ事業ノ研究ヲヤ
リマシタガ爲ニ、聊カ關心ヲ有ツテ居ルノデア
リマス、過日來衆議院ニ於ケル討論ヲ見マ
シテモ、當業者ノ要求ハ殆ド蠶絲業ガ今日
ノ如ク、政府ガ犧牲ヲ拂ツテ國策會社ヲ拵ヘ
ヨウト云フニ至ツタ責任ヲ政府ニノミ嫁シ
テ居ルヤウニ思フノデアリマス、私ハ長ラ
ク大臣閣下ト御顔ハ存ジテ居リマスガ、私
交ハアリマセヌ、敢テ農林當局ニ媚ブル者
デハナイノデアリマス、眞ニ、多年……二
十年前後、商業會議所ノ會頭ヲヤリ、又十

年バカリ蠶絲絹業協會ノ會長ヲヤツテ居リ
マシタガ、此ノ長イ歴史ヲ持チ、此ノ立派
ナ事業デアツテ經驗アル御方モオイデニナ
ル、資産モ十分ニアル、又此ノ會社ハ貿易
業者ト言ハズ、製絲業者ト言ハズ、又養蠶
業者ト言ハズ、相當教育ノアル立派ナ人間
ガ居リナガラ、自ら其ノ事業ヲ完全ニ經營
スルコトヲ爲シ得ナカッタ云フコトハ、要
スル所私國家的觀念ガ乏シイカラデアツタ
ト思ヒマス、然ルニ之ヲ又政府ニ依ラレテ、
此ノ國策會社ニ向ツテ之ヲ營利事業デア
ルカノ如キ觀念ヲ以テ彼等ガ入ツテ來ル、經營
スル時ニハ、此ノ大切ナル事業、生産事業
ヲスツカリ之ヲ臺ナシニシテシマフヤウナ
コトガアリハシナイカト思ヒマス爲ニ、質
問ノ結論ト致シマシテ、此ノ國策會社ハ營
利事業デナイ、眞ノ國策會社トシテ經營願
ヒタイ、神ノ如キ人格者デナケレバ此ノ會
社ノ社長トナツテ經營スルコトハ出來ヌデ
アラウ、申ス迄モナク農ハ國家ノ大本ト稱
シテ米ト生絲、米デ食ツテ生絲デ著テ、更ニ
其ノ餘剩デ以テ小遣ヒヲ取ツテ來タガ、斯ク
ノ如ク發達シテ來タノハ輸出業ガアツタ爲
ニ發達シテ來タト謂ツテモ宜イカモ知レマ
セヌ、近來ノ話ハ……、統計ニ於キマシテ
政府ハ茲ニ考慮サレテ輸出ヲ濫リニシナイ、
輸出事業ヲ衰亡ニ導クヤウナコトガアツテハ
ナラスト云フコトヲ十分ニ考慮サレテ、此
ノ國策會社ノ方針ノ中ニ織リ込マレテ居ル
コトニ付キマシテ、私ハ非常ニ敬意ヲ表シ
テ居ルノデアリマス、唯之ヲ當業者ガ輸出
ヲ索リマスル、阻害スルト云フヤウナ風ニ曲
解シテ、又投機事業、生絲ニ依リ投機ト云フ
ケレドモ、取引所ナルモノハ輸出貿易ニ取ツ

テ必要ナ機關デアリマス、ソレヲ徒ラニ自
ラ其ノ經營ヲ誤ツタコトヲ棚ニ揚ゲテ、投機
業者ガアル爲ニ此ノ事業ガ衰亡ニ瀕シタト
云フヤウナ偏シタ議論ヲスルニ至ツテハ、實
ニ言語道斷ト考ヘルノデアリマス、此ノ點
ニ付キマシテハ蛇足デアリマスケレドモ、
前會ニ有吉委員カラ御話ノアッタコトデア
リ、幸ニモ農林當局、大臣、次官、局長ニ
至ル迄、多年ノ御經驗、農林行政ニ御經驗
ヲ有シ、殊ニ此ノ法案ヲ見マスルト近來米、
生絲ニ向ッテ全力ヲ御注ギニナツテ居ルノデ
アリマスカラ、私ハ農林當局ニ信頼シテ、
此ノ法案ヲモウ完全ナモノトシテ運用サレ
ムコトヲ希望シテ居ルノデアリマス、一言
所感ヲ申上ゲテ本案ニ賛成致シマス

○委員長(子爵八條隆正君) 他ニ御發言モ
ナケレバ採決ヲ致シマス、念ノ爲申上ゲマ
スガ、貴族院ニ於テノ原案トナツテ居リマス
ルモノハ、衆議院ノ修正ヲ加ヘラレタルモ
ノガ只今ノ場合ノ原案デアリマスカラ、左
様御承知ヲ願ヒマス、原案全部ヲ問題ニ供
シマス、蠶絲業統制法案全部原案通りデ御
異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵八條隆正君) 御異議ナイト
認メマス、仍テ蠶絲業統制法案ハ當委員會
ニ於テハ可決セラレマシタ、是ニテ散會致
シマス

午後二時二十五分散會

出席者左ノ如シ

委員長	子爵八條 隆正君
副委員長	男爵稻田 昌植君
委員	公爵鷹司 信輔君
	侯爵四條 隆德君

國務大臣	農林大臣	石黒 忠篤君
政府委員	農林次官	井野 碩哉君

農林省蠶絲局長	吉田 清二君
---------	--------

伯爵酒井 忠正君	子爵米津 政賢君
子爵柳澤 光治君	男爵三須 精一君
今井 五介君	瀧川 儀作君
野村 徳七君	大澤徳太郎君
片倉兼太郎君	